

ご存じですか！文化財

21

「木造千手観音坐像」

市指定有形文化財
昭和61年12月8日指定



問合せ
大和根教育事務所
(☎0480・72・1323)



所在地 北大桑1142 円満寺内

如意山義政院円満寺と号し、真言宗智山派に属する寺の山門をくぐり、正面に見える本堂には厨子に収められた木造千手観音坐像が奉安されています。像容は合掌手、持蓮華手、脇手を合わせて42本、頭上面は頂上面も含め11面あり、千手観音像の代表的な形です。像高は102.2cmで、慈愛に満ちた姿で座しています。

年御開帳するようになりました。円満寺は多くの人々から親しまれ、参拝されていて、毎年2月の第3日曜日には「北大桑円満寺千手観世音菩薩大祭」が行われます。木造千手観音坐像の御開帳はこの日に行われ、交通安全、家内安全、商売繁盛、五穀豊穡を願い、護摩がたかれます。ほかに、子どもの麻疹除けに木製の白馬の腹の下をくぐらせる「白馬くぐり」なども行われます。さらに、境内に設置された特設のやぐらから年男・年女が福をまく、開運種まき式は、大勢の人でにぎわいます。



紹介者 塚田 和夫さん(北大桑)

この観音坐像は秘仏で、以前は33年に一度の御開帳時以外は扉を開くことはありませんでしたが、近年、檀家の要望により毎